

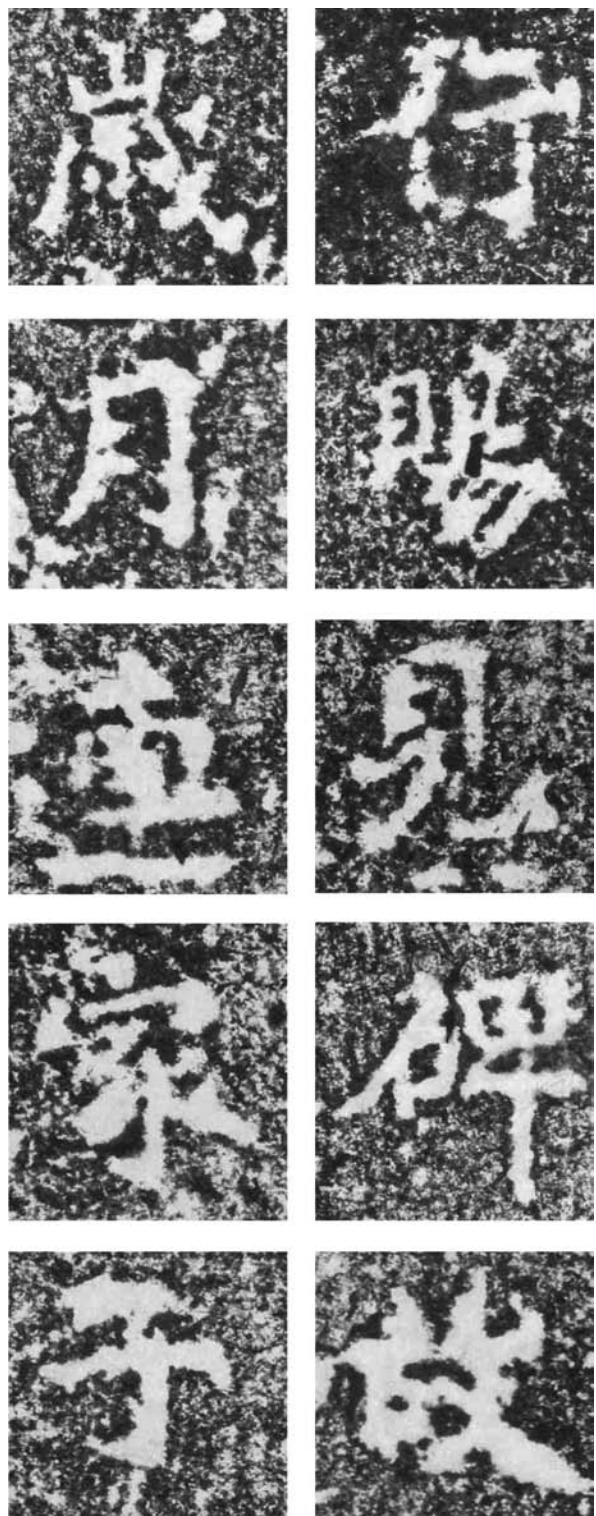
日本の金石文⑤ 「那須国造碑」

文武天皇四年
(700年)頃

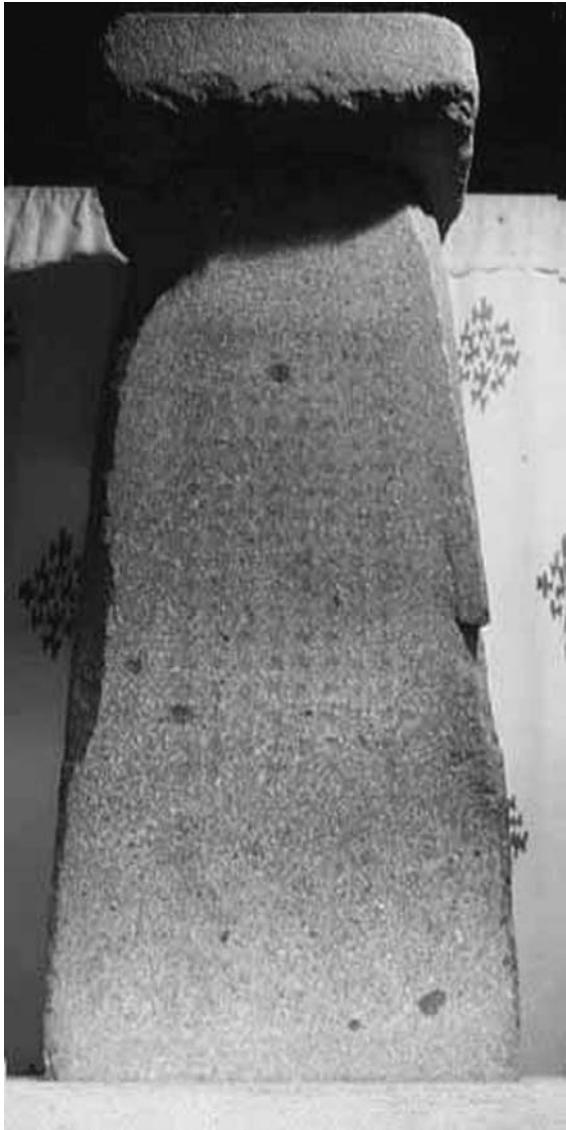
図版①



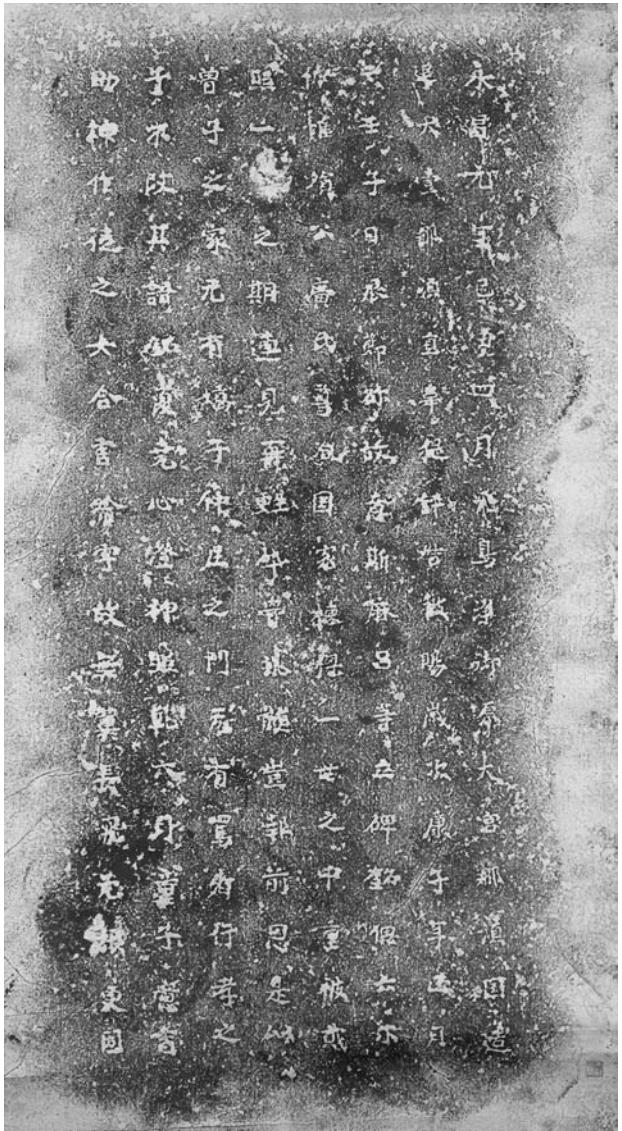
主図版



図版④



図版②



那須国造碑（なすのくにのみやつこのひ）は、多賀城碑、多胡碑と並ぶ日本三大古碑の一である。栃木県大田原市にあり、国宝に指定されている。挿入図版④にあるように、碑身の上部には笠石が置かれている。一行十九字、八行からなる（図版②）。碑文は、永昌元年（689年）の年号から始まるが、この年号は日本の年号でなく唐のものである。この年に那須國造に任せられた那須直葦提は、庚子の年（700）に没したと碑文にある。没後に子孫が顕彰するために建てたとされるが、正確な建立紀年は刻されていない。

碑文の文字は、小さく大変見にくいために今回の主図版は、保存のいい文字を集字し、やや拡大して示した。また見にくい部分が多いので、文字の点画をより鮮明にするために、一部の石面の破損と思われる部分を修正して直し、「鳥」「連」「行」の三文字を示した（図版①）。北魏の楷書を彷彿とさせる書風である。

伊藤 滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院

平成の群像 (2014)



荻原井泉水の句

飯沼恵鳳



還暦を迎えた年に、私は母を亡くした。4月、満開の枝垂れ桜のかーテンの下で、母と娘と3人で手造り弁当を食す。

母は、この地で87年も暮らしながら、初めて見たと大層喜んでくれた。実に至福の時。それからひと月も過ぎぬ間に、想像を絶する事態が発生、奈落の底に。

正に修行の始まりである。そんな事態の中で、母には亡くなる1週間前、実家で会い、問題は解決の方向に進んでいる話をし、母の笑顔を見て、9月、母に感謝し見送った。

私の恩師、加藤翠柳先生の漢字作品に「六波羅蜜」がある。大好きな作品のひとつ。「布施」、「自戒」、「忍辱」、「精進」、「禪定」、「智惠」。修行僧が行う最も大切な修行である。勿論、私の修行など雲泥の差。

私は、書を三段階に分け、第一段階は「線技術の鍛錬」。第二段階は、「感性の極み」。第三段階は、「人間性の確立」と考える。

私は、数年前に第一段階の「線」の基本・基

礎的な運筆が不十分であることを痛感。情けないと気付かされた。恥ずかしい話。克服しなければならない。

私が目指す線は、多種多様。一つひとつに表情を持たせ、生命が吹き込まれた線。

第二段階。書は「黒と白の世界」。いかに書き合い、攻めき合いながら、美の世界へ引き込むか。五感を磨くことにより、感受性を豊かにし、美的価値を理解、美意識をより高く持てるようになる。

第三段階。人間性、内面性、正に「こころ」である。最も重大、大切で至難の業。それは、目に見える物から目に見えない世界へと移り進んで行くもの。

最近、テレビで書家が書いた文字とすっかり同じ様に書くロボットを何気なく見た。無味乾燥。時代は変わったと。

書は、造るものでは無く、生まれてくるものでありたい。それ故、生命が宿り、魂が込められる。

「書は人なり」とよく言われるが、最後はやはり人間性、内面性に尽きたると考える。

目に見えるものだけを追い求めがちな現代社会。書道界もその傾向。

私は、目に見えない物を大切にし、少しでも目に見えない物を観得るような「こころ」、精神を育んでいきたい。

あらゆる困難を怯むこと無く受け入れ、感謝の気持ちで。

「六波羅蜜」の精神で、自分の置かれた立場の中、詩情、気韻を大切にし、「不易流行」の書を求め。

「甚深微妙」の世界を夢見て…。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

公財 書道芸術院定時理事会開催

昨年4月より発足した公益財団法人書道芸術院の平成26年度第1回理事会が去る5月17日（土）午後より開催され、先立って午前中に監事による監査も行われた。

平成25年度事業報告、収支会計決算及び展覧会人事（3月理事会にて昇格人事は終了しており、退会除籍など）を中心審議を行った。また定時評議員会の招集についても決議した。

事業報告、収支会計決算の概略などは別記院報にてご確認いただきたい。ほぼ予定通りの事業展開、会計面では緊縮した予算執行により繰越金の積み増しも行い、健全な財務体質を維持している。会員諸氏のご協力とご支援のお蔭と感謝申し上げたい。

定期評議員会は6月2日を開催予定で、理事会審議内容の他任期満了に伴う理事改選を行う予定になっている。

新理事会は6月12日に開催し、新体制の発足、68回展運営大綱の検討を行うことになっている。

第154回 公社 全日本書道連盟 理事会開催

公益社団法人全日本書道連盟の定時

理事会が5月15日（木）開催され、事業報告、収支会計決算、本年度事業計画などについても審議された。
（主な内容）

- 書写書道教育推進協議会による署名活動の推進、協力事業

すでに本院審査会員にはご協力のお願いを発送したが、全書連と全国書美術振興会が中心となり、全日本書写書道教育研究会など書写書道教育研究機関、更に毎日書道会・読売書法会・産業国際書会などが賛同して、文部科学省・中央教育審議会に対し書写書道教育に関する要望書を提出、併せてそれを支援するための全国50万人署名運動を展開する。集約は8月末日を目指としており、短期間ではあるが是非ご協力をお願いしたい。

・中国「文化交流貢献賞」を連盟が受賞。全書連の永年に亘る中国大使館を通じての文化支援事業、中国書法家協会との交流などが高く評価され、2013年度団体表彰1団体、個人9人に選ばれた。日本からは全書連1団体のみの受賞。

・平成26年度書道夏期大学講座

本年8月1～3日、池袋サンシャインにて開催する。

1日 行草書（中原茅秋講師）、

文物鑑賞（伊藤滋講師）

2日 謹書（吉田洪崖講師）、

かな（吉澤劉石講師）、

3日 篆刻（河野隆講師、1日講習）

・受講料 3日通し 会員1万円、一般1500円、
1日受講 会員500円、一般700円
・申し込み、資料請求は全書連事務局
千代田区鍛冶町2-4-8
エルヘンビル4階

- FAX 03-5294-1371
TEL 03-5294-1372
- 6月5日（木）午後1時より総会
講演会を上野精養軒にて開催予定。

第45回現代女流書100人展盛況

下谷洋子氏 真子さまをご案内
講演「小学校での書道体験」宮絢子氏

例年より開催時期がずれ5月8日（土）12日まで日本橋高島屋特設催事場にて、昨年審査会員に昇格された新進作家展も併催して賑やかに開催された。

初日5月8日には秋篠宮眞子さまがご来場され本院常務理事、本展運営委員の下谷洋子さんが会場のご案内・作品ご説明の大役を果たされた。

新進作家 川島舟錦



最首先生による席上揮毫

第66回毎日書道展鑑別終わる

5月12～13日に未表装にて搬入された公募出品作の鑑別が5月23～25日行われ、入落が決定した。公募入選作、会友作品と篆刻部、刻字部作品は6月下旬の審査にて入賞作品が決定する。

66回展の搬入状況は全体として2008点と3万点台を割り、58回展以来維持してきた3万点超の記録が途切れたことは残念であった。漢字ほか全ての部門で減少しており何らかの対策がのぞまることとなつた。

今回展は審査陣容も平常に戻り入賞数も同様。会員以上の役員作品の搬入は6月17日（書類）、6月23・24日（作品）。ご準備を。

会期初日夕刻懇親祝賀会が会場近くのレストランにて行われた。会期中に

は連日席上揮毫会も開催され本院より最首翠風、木村東舟両氏が披露した。
・本院関係出品者

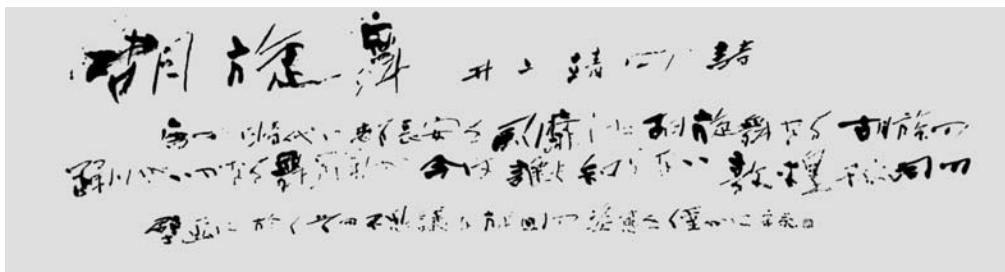
100人展 飯高和子、石田春窓、太田蓮紅、香川倫子、木村東舟、小林琴水、最首翠風、山藤美知子、下谷洋子、砂本杏花、三森慧香、山田梓江、町山美扇

現代詩文書

(三)

熊谷宗苑

熊谷宗苑書



井上靖の詩 (51×172cm)

作品制作のことば選びの中である時期同じ作家の詩文だけを追うことがあります。10数年前は井上靖を追いかけていました。もちろん今でも好きな作家の一人ですので素材として使わせて頂いておりますが…。

また、横書き作品に悪戦苦闘しながら挑戦していた時期もありました。

この作品は第56回書道芸術院展に出品したもので、井上靖の詩「胡旋舞」を素材にしたもので詩文の持つ動的イメージを表現するには横書きでなければなりませんでした。

詩人が縦書きで表現した詩文を横書きにすることへの異論もあるやに聞きますがその素材をどう料理するかは書き手の掌中にあるという矜持は持ち続けたいものです。

51cm×172cm横への流れは一氣呵成のスピードが要求されます。凝縮とは対極の発散する空気を感じます。従来の縦書きの作品とは違った軽快さがそこにはあるような気がしました。若い人達が取り組みやすさを感じるのはその軽さでしょう。

しかし、縦書き作品にしても横書き作品にしても白と黒との対比、余白、行の流れの中に美しい空間を作り出したいとの思いは同じでなかなか難しいことです。

21世紀の書 —私の主張—



25年秋季展

大石仙岳書

前衛書

(三)

大石仙岳

書はリズムであり、作品には

統一したりズムが要で、リズムが狂つたら作品にならない、バランスの崩れた作品は構成と造形に課題があり、動きが自然体になるよう組み替えることだ。

写真の作品は25年の秋季展に出品した作品である。左側から書き出した造形の右側(右端)の造形が、左からの流れを跡切ってしまった形である。

だけど、見方考え方から、作品に変化があり動きがあり、広大さがあつて前衛作にふさわしい表現だと評価する者もいる。

単に象形文字を絵を書く気分で表現すれば、書道作品となる。現代書はそう甘くはない。斬新な作という言葉ももう聞きあきた。負けて泣くよりも勝つて泣けとよく師から聞かされているがやる気や意欲が作品にそのまま表われるものだと最近特に感じるようになった。やはり、何事も為せば成るだ。

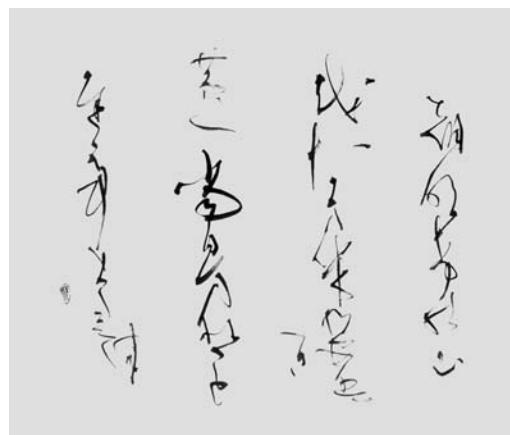
第45回 現代女流書100人展

同時開催=現代女流書新進作家展（第65回毎日書道展会員賞受賞作家）

会期=平成26年5月8日(木)～12日(月)

会場=日本橋高島屋 8階ホール

主催=毎日新聞社 後援=(一財)毎日書道会

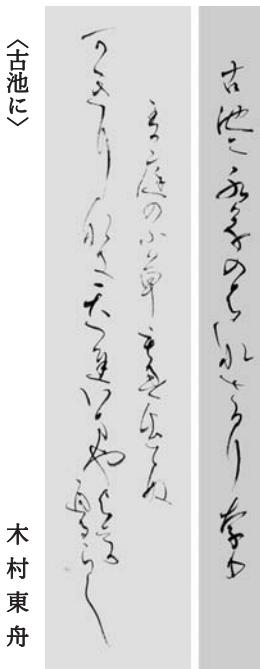


〈朝明けの〉

80.5×94cm



90×90cm



180×20／180×40cm



103×107cm

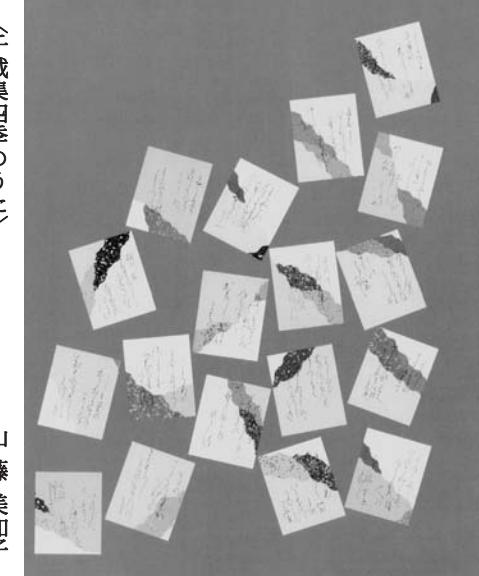


砂本杏花



町山美扇

105×134.5cm

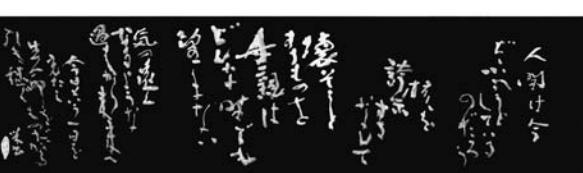


山藤美知子

18×14.5cm(×18)



飯高和子



〈眞佐子の句を〉

31×127cm／35×129.5cm



山田梓江

〈眞佐子の句を〉

68×35cm(×3)

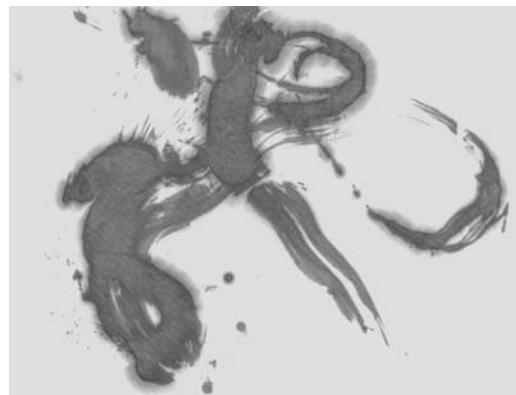
太田蓮紅



〈KOKORO〉

137×149.5cm

石田春窓



〈駆〉

105×133.5cm

川島舟錦



〈月山〉

89×120cm

小林琴水



〈駆〉

104.5×134.5cm

〈聳える〉



三森慧香

180×92cm

新進作家展

温泉銘（唐 太宗）③

〈解説〉 文中、自身を朕と称していることや、「世」・「民」・「基」などの太宗の諱が避諱欠画されていないことなどから、太宗の自作自筆とされている。碑額は散隸（隸書風の飛白体）で「貞觀」の2字が書かれ、離宮の南門にあたる昭陽門内に碑楼を造って安置されたと推測される。碑は早く失われ、この拓本は卷子本で48行あり、末尾に「永徽4年8月30日園谷府果毅兒」という墨書がある。所有者である果毅兒が、永徽4年（653年）、つまり建碑してから僅か5年のうちに拓をとったもので、磨滅は少ない。

（編集部）

※落款を必ず入れる
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみ也可)

漢字研究部臨書課題 || (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

|| (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。



(84%縮小)

新。蠲痾蕩療。療俗／醫民。鑠凍霜夕。飛炎／雪晨。林寒尚翠。谷／暖先春。年序屢易。

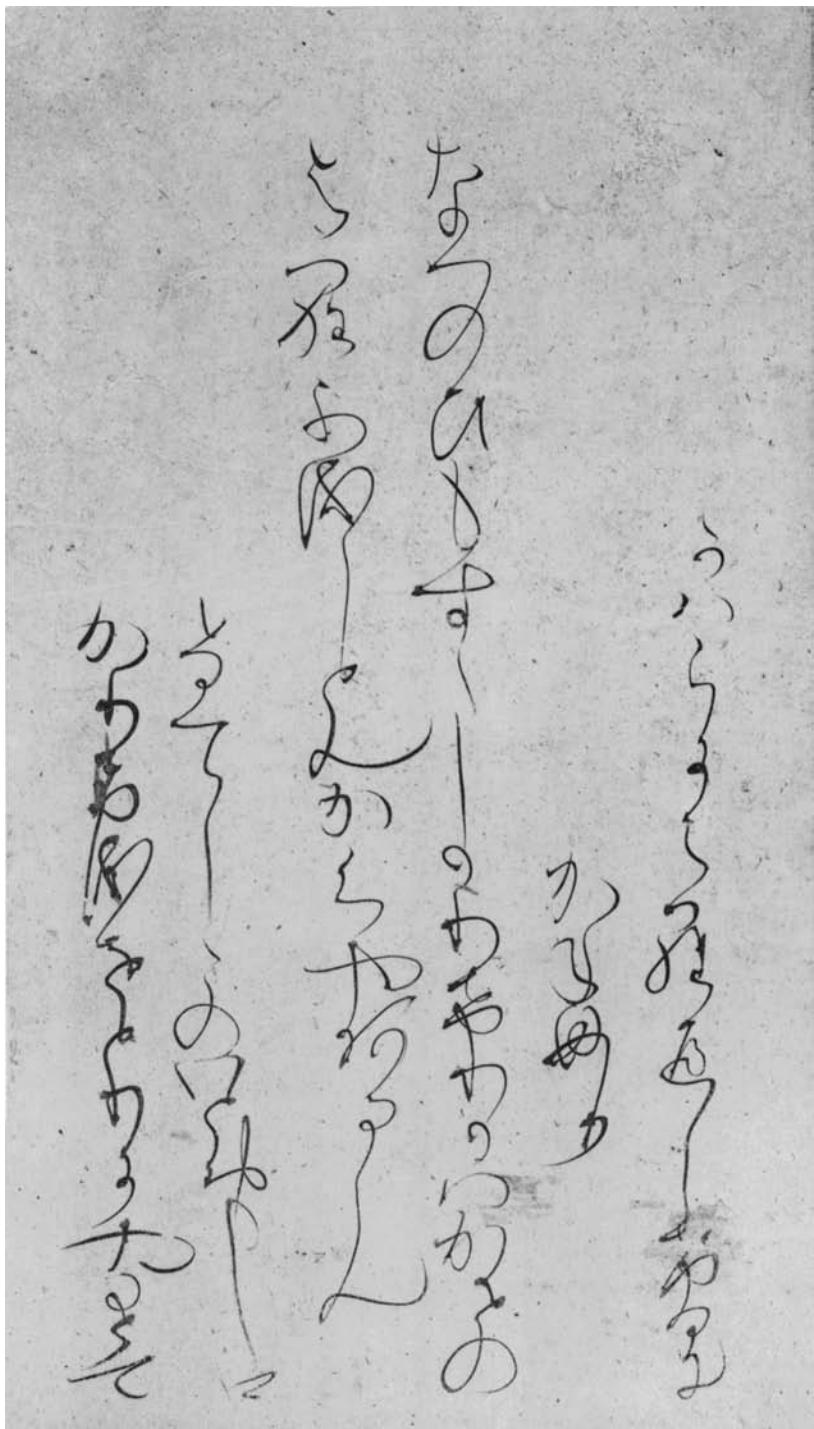
香紙切

(伝 小大君)

③

123

〈よみ〉

(内の御屏風) かはらにはらへしけるに尔
ハル者羅利可ハズシカリケリカハズカゼ世の
はらふることんかくやあるらんむなつのひもすゞしきりけりかはかぜの
はらふることんかくやあるらんむ
なでしこのいとおもしろ
かりけるをとりにやるとて
利希流 利爾

(93%縮小)

〈解説〉

香紙切の書風は、高野切
織細で鋭い線質は穗先の長
い面相筆のようなやや堅い
筆を用いたと思われる。一
字一字に拘らず自由奔放な
筆致で大胆に運んだためか、
一部に乱れた字形も見られ
る。反面、こうした書法は
個性的表現の芽生えとも言
え、また、かなの字体の簡
略化から推して11世紀末の
遺品と言われる所以である。

運筆の速度が早く流麗、
織細で鋭い線質は穗先の長
い面相筆のようなやや堅い
筆を用いたと思われる。一
字一字に拘らず自由奔放な
筆致で大胆に運んだためか、
一部に乱れた字形も見られ
る。反面、こうした書法は
個性的表現の芽生えとも言
え、また、かなの字体の簡
略化から推して11世紀末の
遺品と言われる所以である。

かな研究部臨書課題

- 競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。
(全臨も可)
- 用紙は半紙普通判
(料紙可)
<たて長に使用>
別紙を裁断して貼付も可。
半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。

特別研究部臨書課題

- 毎日展公募サイズ以内・縦横自由
- 左記の掲載以外も可

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

習い方解説 (三)

辻元大雲

花暖麥(麦)涼
(花暖かく麦涼し)
(對句集)

花が咲き乱れ、麦が風にそよいでいるの意です。

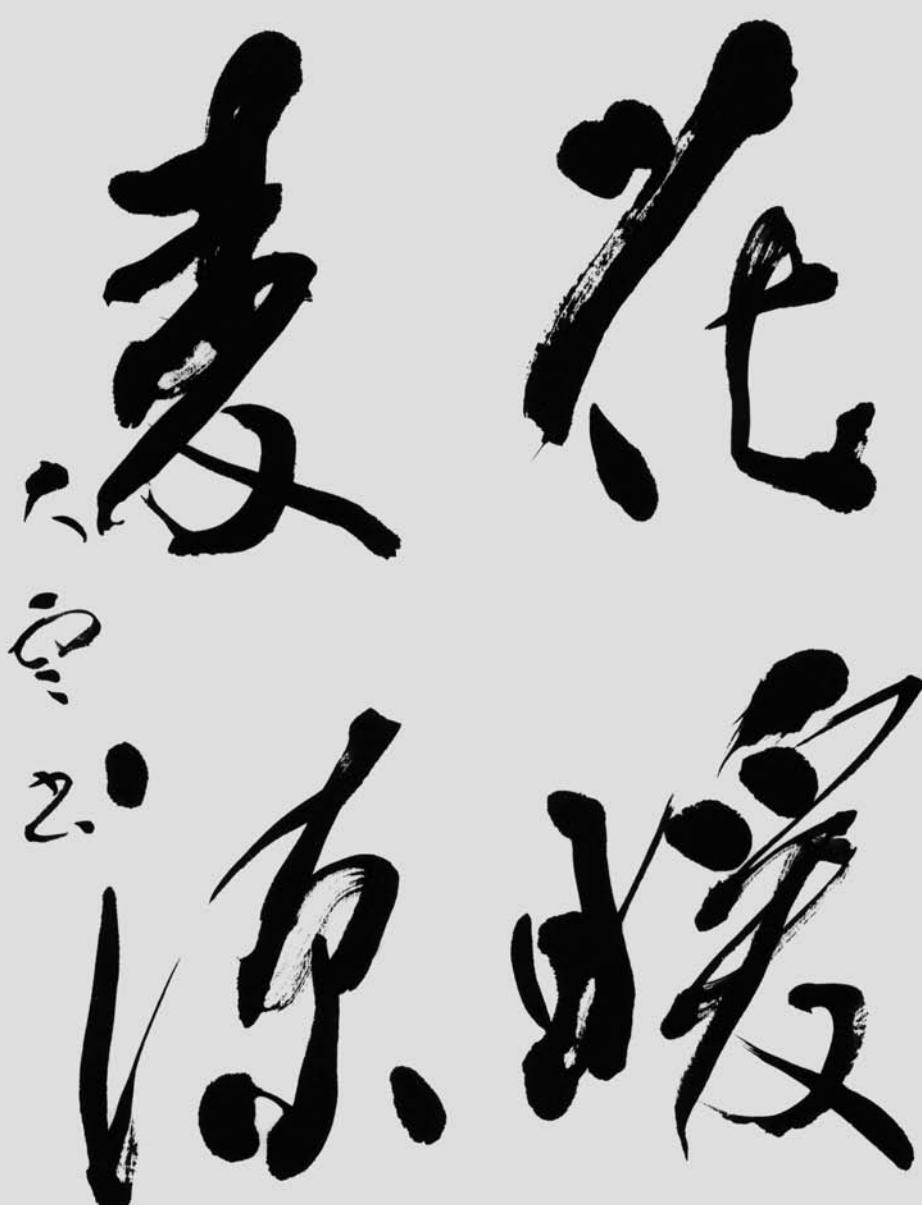
前号に続き行書表現ですが筆を変えていました。羊毫の柔らかさを生かし、太細、潤渴の変化でリズミカルに表現してみました。

前号の統きですが、今回の「麦」

は「麥」が旧字体です。行書になりますとほぼ「麦」の形になり常用漢字体と変わりません。行書体ではこのように連續と省略、更に筆順の変化などにより大きく字形が変わる場合があります。現代詩文書などは漢字とかなの調和のため行書体での表現が多くなり、常用漢字体より書写体からの行書表現が一般的になります。ですから活字体などをそのまま行書にしても字形がおかしくなる場合があり、常

花暖麥涼 よみ(花暖かく麦涼し)

書体=自由



習い方解説 (三)

小伏小扇

窓下有清風
(窓下清風有り)
(白居易)



初唐の三大家の一人、歐陽詢の九成宮醴泉銘を基に書いてみました。これまでにも、とり上げられてきましたので、九成宮醴泉銘の特徴についてはご承知の通りです。字形は、一般に右上りでたて長、そびえ立った感じが清らかで力強いです。胴は背勢にとって、よくひきしまっているなどの全体の感じを、まずつかみましょう。

起收筆は45度で、はね出しは直角にとり短く重厚です。

相讓相避に徹した書き方を学びたいと思います。

窓下有清風 よみ(窓下清風有り)

書体=楷書

かな規定 初段以上【七月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書

習い方解説 (三)

下谷洋子

月涼しへ吹かれて雲のとどまらず
(田代亜浪)

(田代亜浪)



△参考▼

前号で述べた連綿の方向や長さが変化すると、当然行は、直線的に突立った状態ではなくなります。かなはタテ線を中心とした単純な形をしているので、行が立つては固くなります。文字の画が左右に張り出すると、行の外にある空気が動いたような感じになり、表情も豊かに見えます。これを、行が揺れると言っています。どんな文字を使い、どこを張り出しか、規則はありません。参考手本と同じ構成で張り出し方を変えたものも掲載してみました。字組みが変わると揺れ方も違います。

よみ方 月すず(ゝ)しぶ(婦)か(可)れてく(久)も(毛)のとど(登)ま(万)らざ(春)

亜浪のく(久)を

創作

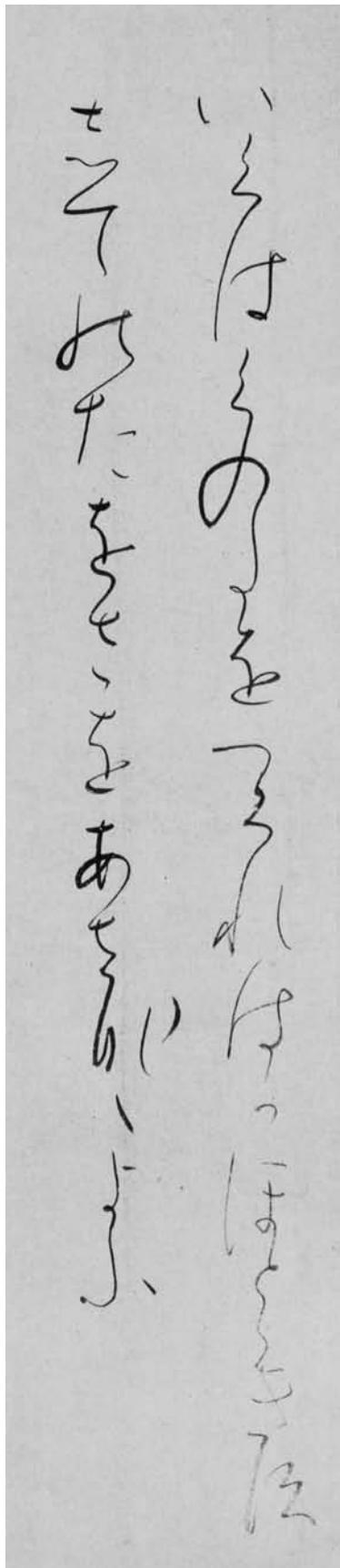


△参考▼

かな規定 秀級以下 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全臨、または部分（二字以上の連綿）を臨書する。



よみ方
いく(久)ばく(久)のた(多)をつく(久)ればか(可)ほとゝぎす(須)
し(志)での(能)たをさをあさな(那)／＼よぶ

かな条幅規定【七月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切（料紙可）

天海矩子選書

習い方解説
(三)

わかつたけ ゆふひ さがな
若竹や夕日の嵯峨と成りにけり

爽やかな若竹色と夕日の茜色の対比が美しい句です。

何文字かの連綿は、前の文字の終筆から次の字の第1画目まで書くようにすると、リズムが途切れず流れが出来ます。墨量过多にならぬよう潤滑に注意しましょう。

よみ方 若竹や夕(ゆ布)日の嵯峨と成(那)りに(尔)け(遣)り(利)

創作

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (三)

小竹石雲



屋角綠飛鄰樹雨
牆頭紅散落花風
(屋角綠は飛ぶ隣樹の雨
牆頭紅は散ず落花の風)

書体=自由

家のそばの木々を背にして緑に映る雨が降り、垣根のほとりには紅色の花びらが風を受けて盛んに散る。

呼吸長く、単調にならないよう多彩な線で、墨の潤渴をつけ、そして字形にも変化つけました。行草は幅広くいろいろ展開でき楽しく書けます。「隣」を「鄰」、「散」を「散」、「牆」は「牆」で書き紙面の充実をはかりました。

習い方解説 (三)

小浜大明

小浜大明選書

漢字条幅規定 秀級以下 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切



大明

印

書体=自由

今回から行草体の表現で、字数を変えて書いてみたいと思います。今日は1行で6文字の作品を書いてみました。半切に1行の場合の字数は最多でも7文字だと考えます。

詩の内容は、雲のかかった林を見ながら自然への思いを馳せ、夢心地でいる心境を詠んだものです。懐を広くとつて、伸びやかに、リズムを大切に書いてみて下さい。

雲林野思幽夢
(雲林野思幽夢む)

(倪瓈)

習い方解説 (三)

小島孝予

五月雨の降のことしてや光堂

無常迅速な時間によつて、何もかも押し流されてしまう運命にあるが、光堂がそれに耐えて残つてゐることに、芭蕉は心を動かされた。

孝予書

芭蕉は歌枕（昔の和歌に詠まれた架空の名所）の宝庫といわれたみちのくで、心の世界を展開しようとしました。しかしそれは歌枕ではなく歌枕の廃墟を旅したのであり、そこで感じたのは失望と幻滅でした。第二部平泉の中尊寺で、何もかも押し流す時間の猛威を目の当たりにし、人は何を頼りに生きていけばいいのか——この新しい問いを胸に旅は後半へと続きます。

(NHK 100分de名著 松尾芭蕉おくのほそ道 長谷川櫂著より抜粋)

前回は全体の構成余白の大切さといふことで、箇条書きの文を課題にしました。今回はさらに普通の漢字かな交じりの文で、構成余白を学びましょう。文章を書く時は、漢字をやや大きめに、かなは小さめに書きます。行の間隔を同じに、上下左右の空間を考えて、全体にゆったりとした雰囲気が出るよう用心がけましょう。

※落款を必ず入れること
(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品
各部総評

No. 636

ベン字部 師範 浜野 永豊

力強い筆致。重厚で堂々とした作品。流れもあり、リズム感溢れる秀作である。

◎ベン字部総評 大字と細字を組み合わせた題材。バランスを取るのに苦労した作品が多かったか。創意工夫が大切。

(鄭街評)



現代詩文書部 特選 吉田 景輝

伸びやかな動きが大きく空中を舞い、包みこまれた紙面が透明で輝きをみせた軽快さがすばらしい。

◎現代詩文書部総評 上位作品は個々のねらいのしっかりした鍛度の高い作品に敬服。

(石雲評)

前衛書部 特選 長中 成山

起筆から生れる線の響き、輝き、深さ、大胆で構成よく、躍动感あふれる秀作である。

◎前衛書部総評 前衛書が理解され向上していますが、さらなる研鑽を期待します。

(光昭評)



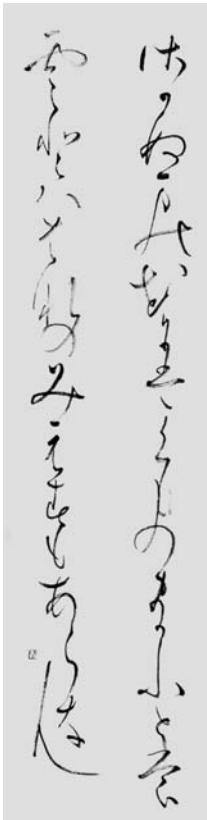
かな条幅部 師範 飯泉 洋子

無理な作意が全く感じられない清らかな作品です。沢山書いて何か大事なことが見えたのでしょう。

◎かな条幅部総評 字が過大、墨量过多で紙面を汚した作多く残念。

余白美は大切です。漢字の花と雲は崩し字研究のこと。

(明子評)



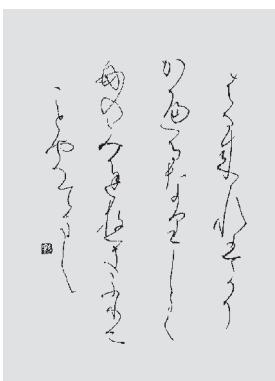
かな部 師範 志村 彩華

バランスよく書かれているだけではなく、かなとしての筆遣い、呼吸をつかみ、精彩感が群を抜く。

◎かな部総評 臨書と同じ大きさの筆では小さく細くなりすぎます。

半紙にどの位の大小、太細がよいのか見極めが大切です。

(洋子評)



漢字部 師範 一森 映泉

躍动感に溢れる筆法で流麗。線は生命感に溢れ魅力的。鍛度の高い行草書で華やかで美しい。

文字資料を作り、その上で创意を加えて作品制作をする姿勢が大切です。誤字等に注意。

(萬城評)

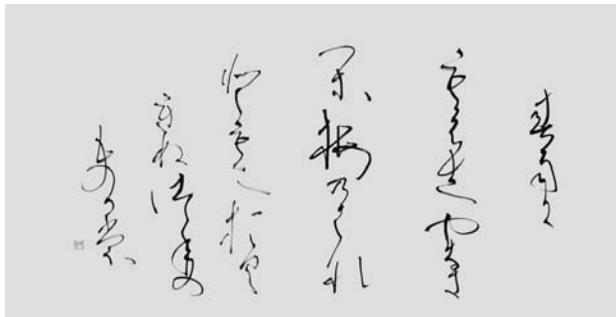
漢字条幅部 師範 一森 映泉

小気味よいリズムが紙面に流れ軽快な作。濃墨による潤渴の変化が行間の余白と響き合う。

◎漢字条幅部総評 全般的に平凡な作多し。多様な変化は基礎力を身につけた上で表現出来る。普段の着実な努力を怠らぬように。(大雪評)

今月の 特別研究部優秀作品(特選)

治田芳江書



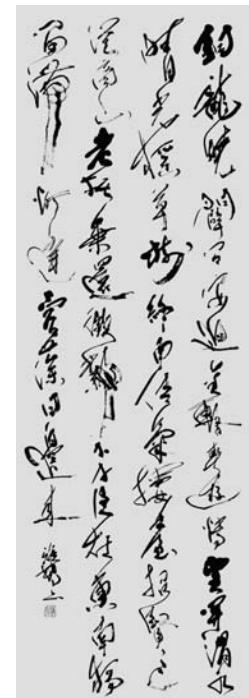
70×135cm

◆鋼のような線であるが絹目の紙のせいで柔かさを感じる。表現過剰にからず品良くおさめて秀作。
(蒼玄評)

治田芳江

「春雨に」

かな
(如月)



181×61cm

◆筆に墨のふくませ方が巧み、こそぞと思う所でたっぷりとした効果があり詩が呼吸している感がある。
(倫子評)

◆多様な筆使い、それも瞬時の変化に魅了される。全体ではどーんと訴える重厚な雰囲気が見事です。
(明子評)

漢字
(恵雅)
「銅龍曉」

漢字
(恵雅)
板橋雅邦

◆字形、行間、布置すべて完成度の高さは立派です。更には、湿度感を考慮して制作されますよう。
(明子評)

◆前半大きく行間を空け、後半へと収束させていく手法は見事。線質がやや単調に感じられる。さらに努力を。(大雲評)

◆乱れず流れを上手に筆と一緒に動きを表わしていく、読みながら自分なりのリズムが感じられる作。(倫子評)

◆行の自然な揺らぎがリズムを醸し出し、潤渴大小の変化で詩情を表現している。ほのかな心暖まる作。
(大雲評)

◆单々と書きすみ軽快にまとめ上げた。漢字の大きい部分とかなの小さい部分がリズム感を出している。
(蒼玄評)

◆知的な表現で詩情を豊かに伝える技術はあっぱれ。墨量の調整は学ぶところの大です。憧れる現詩作。
(明子評)



138×70cm

板橋雅邦書

現代詩文書
(蒼原)

金濱珀燁

「崇の詩」

金濱珀燁書

◆ぼつりぼつりと燈りが……
と言う感じが紙面にあふれ、夜空に浮ぶ月の姿と静かに向きあっているよう。(倫子評)

◆单々と書きすみ軽快にま

とめ上げた。漢字の大きい部

分とかなの小さい部分がリズム感を出している。(伦子评)

◆多様な筆使い、それも瞬時の変化に魅了される。全体ではどーんと訴える重厚な雰囲気が見事です。
(明子評)

漢字（もくせい）西川藤象

「七言二句」



西川藤象書

180×60cm

◆心のこもった力強い作品には圧倒されます。訴えかける作品のレベルを越えて藤家さんそのものです。
(明子評)

◆筆の廻転の変化を巧みに表現して、太い線の動きが細い線に重みを与える事なく紙面をまとめている。
(倫子評)

◆やや硬めの筆を駆使し、破筆の効果で立体感を出す。強弱大細の変化が自然で安定した作。

◆明快な筆致で空間を切り開いてゆく。それぞれに造形を工夫し見せ場を出しているが2行とも後半に余裕を。
（蒼玄評）

温泉銘

(竜泉) 小林洋龍

◆すっきりと伸びのある
線で原帖の味を出した
作。 しいていえば線のふ
くらみと重さがほしかつ
た。
(蒼玄評)

◆丁寧な仕事に好感が湧きます。形や心を学ぶことはそれに尽きます。その上全体が美しい作品です。

◆暢びやかな筆致が明るく、自然なリズムを醸し、温泉銘の味わいをよく捉えている。丁寧さに好感。（大雲評）

◆取り組む姿勢が書く手だけでなく、心の動きまで表現している感あり。線の切れも鋭さを發揮している。

是而山間宇宙復舊哉基泉涌鑿鑿池砌泓流而起岸巒巒虹曜
曲垂梁岫月澄蕩伍入牖邇調風以高志鑑泉而肅心資平生
時長波不見其勢若風颸峯歲豐不稍其寒不以古今變質
不以涼暑易撫無宵忘日月而周流不盡不塞將天地而齊
固永濟民之沈疾長決施於無窮勃掌碑乃為日甚也

小林洋龍臨

136×35cm



田村紅沙書

181×61cm

前衛書 (蓮紅) 田村紅沙

◆4二の丸の動きは、それ
ぞれ違つて、楽しいリズム
を表している。墨色は良
いがにじみがあればさら
に大きい。 (蒼玄評)

◆筆の運転でかすれと墨の塊りを上手に所を得て表現している。墨色が少し平凡なのが惜しまれる。
(論子評)

（）（）（）（）（）（）

千葉千葉千葉
「現代」東実大雲游水大雲前衛「角田山王」

竹浪 叙舟
松村 秀扇
影山 扇葉
吉田 真理
長島 僮雨
荒川 空華
池田 沙靜
詩」

〔特選候補者〕

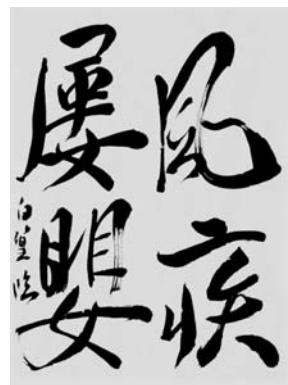
**總出品点数
88点**

| | | | |
|----------------|----|-----|-----|
| 創作の部(54点) | 漢字 | 一 | 13点 |
| | かな | 一 | 1点 |
| 篆刻の部(34点) | 現代 | 一 | 17点 |
| | 前衛 | 一 | 0点 |
| 臨書の部(33点) | 漢字 | 一 | 1点 |
| | かな | 1 | 33点 |
| 総出品点数 | | 88点 | |
| 〈特選候補者〉 | | | |
| (創作の部) | | | |
| 「漢字」 | | | |
| 八街 | 熊谷 | 桃華 | |
| 千葉 | 竹浪 | 叙舟 | |
| 千葉 | 松村 | 秀扇 | |
| 千葉 | 影山 | 扇葉 | |
| 「現代詩」 | | | |
| 東実 | 吉田 | 真理 | |
| 大雲 | 長島 | 僕雨 | |
| 游水 | 荒川 | 空華 | |
| 大雲 | 池田 | 沙靜 | |
| 「前衛」 | | | |
| 角田 | 坂田 | 翠江 | |
| 山王 | 鈴木 | 春江 | |
| 白疏 | 田子 | 惠琉 | |
| (臨書の部) | | | |
| 「漢字」 | | | |
| 白珠 | 千葉 | 小林 | |
| 加美 | 大雲 | 江本 | |
| 「かな」 | 相内 | 宍戸 | |
| 「かな」 | 小川 | 珠莉 | |
| 英峰 | 曉雲 | 珠葉 | |
| 吉瀬 | | 咲舟 | |
| 彩雨 | | | |

漢字研究部
(温泉銘)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



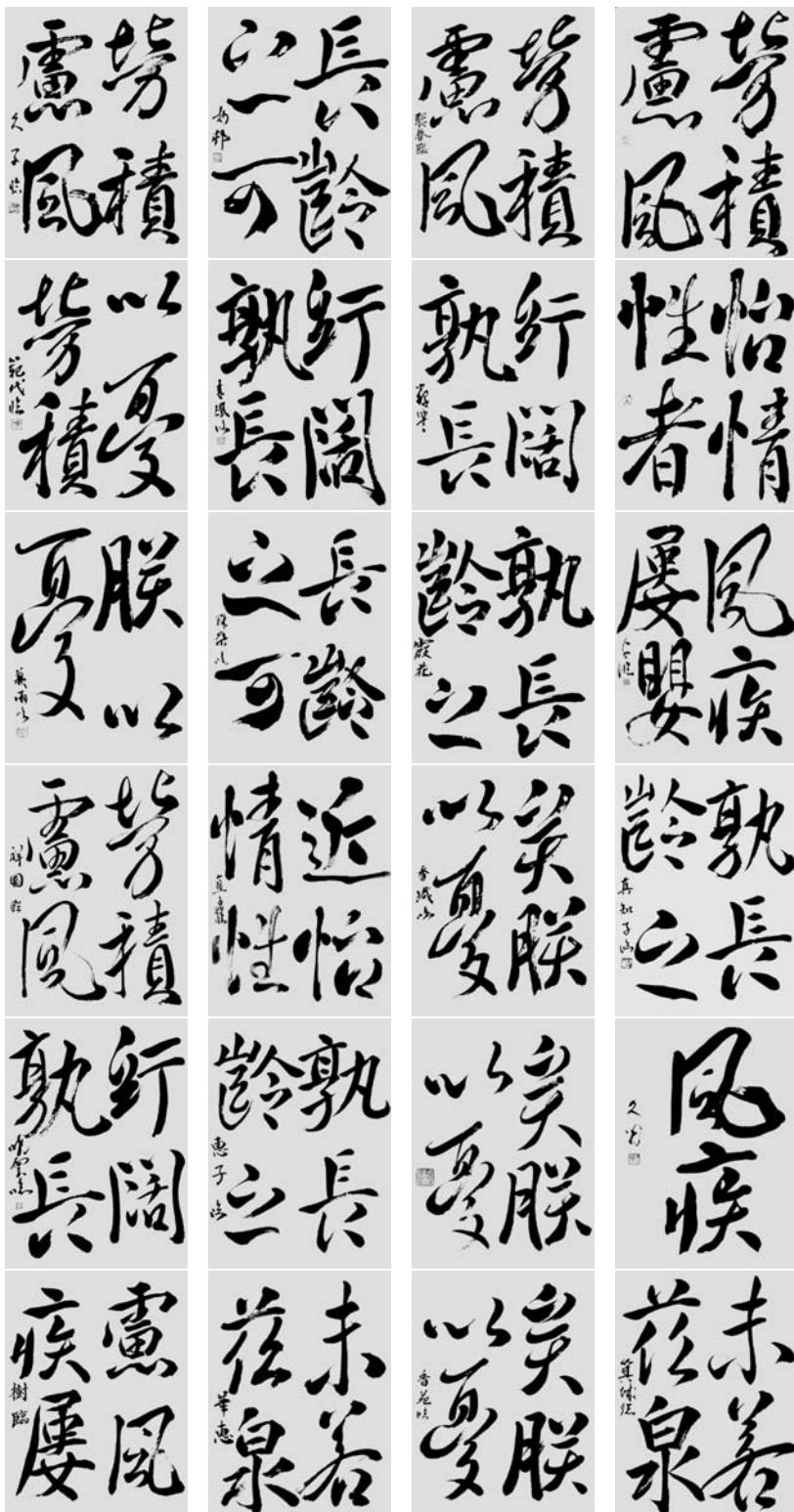
河野白菴

漢字研究部 特選 河野 白菴

太宗が風疾（中風）になやまされ、温泉で治療することを述べるところです。動きの大きさ、しかも運速をつけた運筆は息も永い。それに重厚な線、穂先を使った細い線、それが紙によく食い込み、見事な臨書です。

◎漢字研究部総評

今回は原帖の見方の甘い方が多かったように思いました。それぞれ臨書目的の相違によっ



曉祥萩範久
樹臨

華惠直珠青妙
恵子子葉鳳邨

香喜香霞鶴聰
苑子織花豊春

箕久美紅
眞知子梢
城光子

て、臨書方法も異なりますが、基本として次の点を把握し、筆を持ってほしかったです。
①奔放な書きぶりで規模が大きいこと。②字形はさまざまだが、縦長が多い。③疑問な文字は字典で確かめる。④重厚な線か、軽妙な線か、などをじっくり観察。
いつものことですが、上位の方々は原帖の特徴をよく掴み、よい学書をされています。

か な 研 究 部
(香紙切)

選評 善菴寺 紅 風

今月のホープ作品



飯 高 幹 生

かな研究部 特選飯高幹生
大胆で纖細、鋒の先まで神經を使って書いている
様子がうかがえます。一方で思い切り良く大きく筆
が動き、流麗で品格の高い作品となりました。
◎かな研究部総評

かな研究部成績表

| | |
|-----------------|--|
| 千和正大上こ玉葉平華雲泉だ松秀 | 秀A華上書A大竜八幕紅正玉高高A安椿幕正高玉大澄う水I仙泉寺I阪泉戸張瑤華藻崎井I波翠張華崎松雲春る |
| 猪井伊礒池五青又上藤貝田十木風 | 寺清山山都伊中森市北須林萩根櫻藤小小高佐松小堀宇飯澤水口縣丸藤村田川村田原津田村野林橋藤浦川切田高由み真喜寺川 |
| 理英英清美佳葵扇二子蘿子米郷 | 悟紀雪令ど寿由龍紫憲香美玉飛和昌久晃賢麻玉彩辛春幹子翠子千子美傳泉舟子藻龍子美代雲美江香雲華生 |
| もく佳 | や高紅硯蓮前治正洞玉白秀正上一艸石秀大澄土誠春惹竜樹奥蘭梓蘭大A大ま崎苑水紅橋田華書松珠畠華泉草玄舟水阪春氣和汀晝泉原田鼎江鼎阪I防 |
| 青木作 | 山矢茂宮本別古東濱長西長永中中内富徳高杉新佐坂後紺小小川川小生岩口口木澤田府天田田谷山島井村村澤藤澤田野田谷々本藤野林橋元崎野方根川 |
| 藤連(50書) | 律登真草美信潤敏竹千裕一宏ゲー雅惠秋杏草翠淳里良遊純理木さくら茉優萩子江蘭秋雪子子雪峰人水桔子翠子博子峯華園光子美皇后仙子光子筆 |

も京松高
く橋村陵 入 白蓮春こ石皓長千前上土洞雲千も春翠玉や郷童竹澄た硯高や高枝た若彩鬼竹童椿た陽高う石やN有正 大千
露紅汀だ習映月葉橋泉氣書溪葉く汀柳松ま州泉扇春か水崎ま崎苑か葉 高扇泉翠か陽真る習まH秋華阪葉
新阿青會 渡遊富宮松松増平春濱西中仲戸戸渡近田田宅高高新猿佐酒齋小小河工岸神河加遠梅岩今犬伊伊石生池足
井部木木 遷 边佐野川丸田山山田澤村西村部子池中玉 稲井行渡渡々井藤峰沼野藤田田岡藤藤津崎上関飼東藤川駒駒立
藤春玉勇 重紅津洋 美豊 愛映佳彩勝陽瑠寛游博藤紀柳耶哲都雅小瀬冬篁雅知つ加初白山東典星龍珙代陽郁心道京良洋津萩萩万
雪清枝介 子雅枝子石華子華美一美子溪舟風子芳衣子子京秋子白方子え子風臺房子子扇惠菜子光子華石子祐子花溪琇
四八春童高芳英童上樹翠蒼大木雲大童広汐四正玄英高生大生広N福大東秀こ華雲苑樹上秀こ高こ前 澄秀童幸筑誠八千水椿
谷街汀泉崎蘭峰泉原吟陽阪雲雀雲泉島風谷華象峰崎大阪大島日山雲峰水こ祥溪書原泉明だ真だ橘 春明泉扇校和街葉海翠
佐佐赤櫻酒齊斎後近込小高劍黒吳熊久陸木木吉北北岸菊川川河龜門加加香小奥岡大大梅梅碓宇岩今井伊市石石飯安
藤々田井藤藤藤藤山林武持柳 谷保 原下瀬村又本池本田崎合井脇藤川野山村森石山原井井瀬崎村上藤川渡川泉
木木 美 美 寺跡 美詠町和龍恵江早知考淑閑美萩玄霜竹豊彩智喜輝都欣彩春秋善南温綾和芳信翠雅翠加翠生喜星久虹 楠祥洋貴洋悦順翠晴洋代
子華子自子彩苗子市子密艸汀城國華善美華代子子雨子岐薄高江子善敬季子陽若満都峰子代祥子祥弘闡園子泉祝子子祭洞子